バッハ「平均律クラヴィーア曲集第１巻」

（全6回）

作曲家・中村洋子 による アナリーゼ講座

第1回

第１部 ： 特別講座『バッハの「序文」の内容は、「平均律１巻 1～6 番」に、完全投影されている』

第２部 ： 平均律第１巻 第１番 C-Dur プレリュードとフーガ

■日　時： 2018 年 **1 月 20 日**（土） **14：00～18：00**

■会　場： **エッサム本社ビル 4 階 こだまホール**

住所：東京都千代田区神田須田町１－26－３　TEL：03－3254－8787

（JR 神田駅 北口 徒歩 3 分 ※エッサム1、2号館ではありません）

■受講料： 4,000 円（税込）

■定　員： 60 名

11 月 10 日より
受付開始！

なぜ、平均律クラヴィーア曲集がクラシック音楽の根源なのか

平均律クラヴィーア曲集の存在は、その成立から現代にいたる、300 年間のクラシック音楽を規定しました。この曲集が存在しなかったら、クラシック音楽は普遍性を獲得できず、ヨーロッパ地方の民族音楽の域に留まったかもしれません。人類の宝といえるこの曲集が、なぜそれほど重要で、バッハの後に続く大作曲家達は、この曲集を規範と拠り所としたのか。その謎のすべては、バッハが 1722 年に書いたわずか 21 行の「序文」に集約されています。

私は、新バッハ全集（Neue Bach-Ausgabe)を編纂しているドイツのベーレンライターBärenreiter 社の楽譜「平均律クラヴィーア曲集第 1 巻」に添付する「解説書（バッハ序文、前書きの翻訳と、詳細な解説）」を、2017 年に刊行しました。この解説を書きながら、バッハの「序文」が、平均律第 1 巻の全容を集約したものであることを確信しました。まず、1 巻の 1～6 番までを全 6 回シリーズで、解き明かします。この 6 曲が核となり、平均律第 1 巻全 24 曲を形成していることを、バッハの「序文」は暗示しています。1～6 番プレリュードとフーガを理解することが、全 24 曲理解の礎となります。

その結果、ベートーヴェン、ショパンなどクラシックの大作曲家の作品に対する理解も飛躍的に高まります。

平均律第 1 巻を弾く真の喜び、聴く本当の楽しみを獲得することができます。

（講師：中村洋子より）

≪申し込み・お問い合わせは≫

アカデミア・ミュージック株式会社 企画部

Tel. 03-3813-6757（日曜定休）　E-mail. kikaku@academia-music.com

（お申込みの際、お名前、住所、電話番号を明記してください。）※定員になり次第、締め切らせていただきます。

講師：作曲家　中村洋子

平均律クラヴィーア曲集第 1 巻　第 1 番　C-Dur

・プレリュード

全 24 曲の曲頭は、明るく軽やかな 16 分音符の分散和音を上声に、威厳に満ちた 2 分音符のバスをもつプレリュードです。

一見シンプルな前奏曲のようです。しかし、それをバッハの自筆譜を基につぶさに検討してみますと、驚くべき和声と、周到に張り巡らされた対位法が、浮かび上がってきます。バッハの「無伴奏チェロ組曲」1 番プレリュード G-Dur と同様に、そこには音楽の大宇宙が拡がっているのです。

・フーガ

一般的なフーガの約束事から、遠く離れたフーガです。

プレリュードが広大無辺に拡がっていくのに対し、フーガは、並外れたエネルギーを内側へ内側へと収斂させていきます。フーガを彩る「対主題（主題とセットで奏される副主題）」や、「嬉遊部（主題や対主題の要素を、対位法的に組み合わせた部分）」は、全く姿を見せません。そればかりか、7 小節目から早くも「ストレッタ」が、始まります。このフーガは、一瞬たりともこの主題の猛烈なエネルギーから逃れ得ないのです。なぜそこまで異例なのか？

答えは、バッハの「序文」にあります。

プロフィール

東京芸術大学作曲科卒。

・2008～15 年、**「インヴェンション・アナリーゼ講座」全 15 回**を、東京で開催。

「平均律クラヴィーア曲集 1、2 巻アナリーゼ講座」全 48 回を、東京で開催。

自作品**「Suite Nr.1～6 für Violoncello 無伴奏チェロ組曲第 1～6 番」**、**「10 Duette für 2Violoncelli　チェロ二重奏のための 10 の曲集」**の楽譜を、ベルリン、リース＆エアラー社（Ries & Erler Berlin）より出版。

「Regenbogen-Cellotrios　虹のチェロ三重奏曲集」、**「Zehn Phantasien für Celloquartett(Band1,Nr.1-5)　チェロ四重奏のための 10 のファンタジー(第 1 巻、1～5 番)」**をドイツ・ドルトムントのハウケハック社 Musikverlag Hauke Hack Dortmund から出版。

・2014 年、自作品**「Suite Nr. 1～6 für Violoncello 無伴奏チェロ組曲第 1～6 番」**の SACD を、Wolfgang Boettcher　ヴォルフガング・ベッチャー演奏で発表。（disk UNION : GDRL 1001/1002）

・2016　年、ブログ「音楽の大福帳」を書籍化した　**≪クラシックの真実は大作曲家の「自筆譜」にあり!≫**～バッハ、ショパンの自筆譜をアナリーゼすれば、曲の構造、演奏法までも分かる～（DU BOOKS 社）を出版。

・2016　年、ベーレンライター出版社（Bärenreiter-Verlag）が刊行したバッハ「ゴルトベルク変奏曲」Urtext　原典版の**「序文」の日本語訳と「訳者による注釈」を担当。**

・2016 年、ギターソロと二重奏の作品集「夏日星」を収録した**≪CD 夏日星≫**を発表。

・2017 年、ベーレンライター出版社（Bärenreiter-Verlag)が刊行したバッハ「平均律クラヴィーア曲集第１巻」Urtext 原典版の**≪「前書き」日本語訳≫≪「前書き」に対する訳者（中村洋子）注釈≫≪バッハ自身が書いた「序文」の日本語訳≫≪バッハ「序文」について訳者（中村洋子）による、詳細な解釈と解説≫を担当。**

アナリーゼ講座「平均律クラヴィーア曲集第１巻」　今後の予定

第２回：3 月 24 日（土）14:00-18:00　　第３回：5 月 26 日（土）14:00-18:00

第４回：7 月 21 日（土）14:00-18:00　　第５回：9 月 22 日（土）14:00-18:00

第６回：11 月 17 日（土）14:00-18:00

会場はすべて、エッサム本社ビル　4 階　こだまホールで行います。

主催：アカデミア・ミュージック株式会社